

平成30年度 長野県岡谷工業高等学校 学校評価表 (最終報告)

学校番号 53 岡谷工業高等学校

1 学校教育目標と重点目標

(評価) A: 十分 B: 概ね十分 C: 不十分

学校教育目標	重点目標 (中・長期的目標)	内部評価	成果と課題	外部評価
教育基本法ならびに学校教育法の精神に則って、次の目標を達成することに努める。 (1) 人格の形成をめざし国家並びに社会の有為な形成者として必要な資質を養うため、一般教養を高める。 (2) 日本の工業の建設発展の根幹である技術者として、地域に根ざした教育活動により、必要な技能・知識・態度を養成する。 (3) 本校の伝統の校訓である質実剛健、至誠一貫の精神を涵養する。 校是「技術者たる前に 人間たれ。」	地域から求められる生徒を育成し、より魅力的な工業高校の姿を求める。 (1) 学力の一層の向上に努める。 (2) クラブ活動の充実と活性化に努める。 (3) 地域との連携により、社会に連動した魅力と活力のある学校づくりに努める。		工業高校の特色を活かし地域との連携を積極的に行い、工業教育の活性化に努めた。 各教科において、職員相互の授業参観週間を設け「わかる授業の展開」に心がけるとともに、基礎学力の定着などについて、関係委員会等で検討を重ねた。 部活動において、地道に活動を積み重ねた。ラグビー部は全国大会に出場し、電気部のロボット相撲では全国準優勝という輝かしい成績を残した。 各学科の特色を活かし、小学生や中学生を対象にしたものづくり教室の開催や地域のイベントに出展を行うなど、本校のものづくり教育について積極的にPRを行った。また、地域の大学との連携を深めることで、実習、課題研究において専門的な知識・技術を高めた。	
	今年度の重点目標	内部評価	成果と課題	外部評価
	(1) 生徒の学力を伸ばし、進路実現へとつながる教育 ア 授業改善と個に応じた指導による学力向上 イ 授業公開-参観による教員の資質・能力向上 ウ インターンシップをはじめ、キャリア教育の充実による社会を担い貢献できる生徒の育成 エ コミュニケーション能力や情報活用-発信能力に優れた人材の育成	B	2年生全員を対象に実施しているインターンシップは岡谷市や地元企業の協力をいただき、実施内容や報告会の中身も充実してきている。来年度も受け入れ先の開拓や報告会の発表方法等についてさらに充実したものになるよう準備していきたい。 インターンシップは、多くの生徒に職業観の形成や積極的な進路選択、社会人のマナーの会得など効果がみられる。 インターンシップ報告会に向けて準備をする中で、プレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力の向上につながる支援ができていく。	A
(2) 生徒一人ひとりが、安全で生き生きと充実した高校生活を送る環境づくり ア 挨拶の励行、清掃の徹底による学習環境の整備 (5Sの徹底) イ 各種コンテスト、資格取得や技能検定の情報提供と積極的な挑戦 ウ 生徒会活動、部活動の一層の充実 エ いじめ、体罰のない安心安全な学校づくり オ 支援を必要とする生徒や悩みを抱える生徒への相談・支援の充実 カ 情報モラル教育の計画的な指導 (HR、学年、生徒指導、進路指導の連携)	B	学習環境の整備 (5Sの徹底)には改善の余地がある。安心・安全な学校づくりのために職員がさらに意識を高める必要がある。 専門的知識を生かし、上半期においても各種資格や技能検定の合格者が多数出ている、ものづくりコンテストへの取り組みは、「電気工部門」「電子回路組立部門」「化学分析部門」とも北信越大会に出場した。それぞれが専門的技術の向上を目指し努力した。次年度も同様に取り組みをしたい。 生徒指導では教育相談を含め、学級担任、生徒指導係、人権特別支援委員会、スクールカウンセラー、地域サポート機関と連携をとりながら、生徒や保護者の悩みに寄り添う支援を行った。いじめについては、日頃から注意深く見守るように心がけるとともに、いじめ防止等人権特別支援委員会を設置し、その予防に努める。 高校生が利用するインターネットの適正な利用の仕方について、生徒・保護者対象の講演会を行い、ネットトラブルの対策について理解を深めた。	B	
(3) 地域に根ざし、地域の期待に応える、開かれた学校づくり ア 学校開放・地域貢献・地域連携・地域活性化・ボランティア活動への取り組み イ 国・県の指定事業、各種団体の助成事業の積極的な活用 ウ 広報活動の強化 (HP等による積極的な紹介、工業高校の存在意義の再確認) エ 小中学校におけるキャリア教育への支援 オ 本校の将来構想について検討の推進 カ 地域清掃活動 キ 地域の子どもたちから「あこがれの岡工生」としてみられる生徒の育成	B	「諏訪圏工業メッセ2018」「岡谷エコフェスティバル」「南信工科短大人材ふれあいフェア」等への出展および体験教室を開くなど、地域企業が行っているものづくりに触れるとともに、本校のものづくり教育についてPRすることができた。HPで積極的に学校活動についての発信を行うことができた。信州自然エネルギー・環境教育支援事業、岡谷エコロータリー助成、同窓会ものづくり支援などの助成事業にも継続して指定され、教育活動の活性化のために支援をいただいている。今年も工業の町岡谷にある専門高校として、「質実剛健・至誠一貫」「技術者たる前に人間たれ」の校訓・校是のもと、工業教育による人格の陶冶、優秀な技術者の養成を目指してさまざまな教育を行っている。卒業後も特に工業関連の企業から、岡工生の勤勉で積極的な働きぶりには良い評価をいただいております。来年度も地域の子どもたちからも「あこがれ」られる実績をよりいっそう確かなものとした。	B	

2 評価項目と評価の観点

領域	対象	評価項目	評価の観点	内部評価	成果と課題	外部評価
教育活動	教育課程	教育課程の編成と検証	学習指導要領に従った現教育課程は、生徒の実態や希望に、また、地域の産業界の要望に応じたもので、生徒の学力を向上させるものであるか。	B	新学習指導要領に合わせて教育課程の編成を行った。新学習指導要領の実施に向けて本校の新カリキュラムの検討を今後も進めていく。	A
		選択制の実施	生徒の実態と要望に応じた多様な科目設定、並びにそれぞれの進路に応じた適切な科目選択指導が行われたか。	A	本校の実態に合わせて、今年度は新たに3科目を既存のものに変更した。生徒との話し合いを重ね、生徒の意向を尊重し、進路に応じた選択指導を行うことができた。	A
教育活動	学習指導	習熟度別学習・学力の向上	生徒の実態に即した分かり易い授業の実践、学力や進路、資格取得に対応した補習授業の実施など、手厚い学習指導を通して生徒の意欲や基礎学力の向上に努めることができたか。又、習熟度別学習の導入により、それぞれの講座で目標とする学習効果をあげることができたか。	B	学年・教科と連携し、放課後や長期休業中に補習授業を実施している。3年の進学希望者へは英語・数学・物理の補習を実施中である。資格取得では生徒に実施内容を伝え、学習意欲向上につなげている。英語・数学で少人数（習熟度）学習を行っているが、基礎学力定着には、十分な成果がでていない。学力向上のための授業を更に研究・実施したい。	A
		開かれた学校教育	開かれた学校教育を目指し、シラバスの公開や授業公開などを実施し教育活動を周知することができたか。また、その活動を通して授業改善や教員の資質能力の向上に寄与できたか。	A	授業公開を春（4月）と秋（10月）に実施した。本校保護者・中学生・中学生保護者に本校の教育活動を周知できた。地域の方や本校保護者の参加が更に望まれる。授業公開はシラバスの公開と共に開かれた学校教育を実現する意義のある活動となった。授業アンケート・学校評価アンケートを12月に実施。	A
		保護者との協力体制	学習指導に関して、入学式や地区PTAなど機会を捉えて保護者への説明ができたか。家庭連絡書などにより、保護者との連絡を密にした学習指導が実施できたか。	A	今年度も入学式や地区PTAにおいて、資料に基づきながら、本校の学習指導について説明できた。今後も成績不振など問題のある時は、家庭連絡書を利用したり、早めに電話連絡などで状況を報告し、お互いに情報を共有しながら対応していきたい。学校評価アンケートを12月に実施。	A
	生徒指導	家庭との連携	家庭や学校生活での行動の変化等の心配事や、事件・事故・問題行動発生時等に速やかに対応できるように家庭との連携が取れているか。	A	入学式・地区PTA・保護者懇談会を通して、本校の生徒指導の基本方針を保護者へ説明することができた。問題発生時には、関係部署と連絡を取り合い、保護者に説明し情報を共有し対応している。本校生徒の自転車運転マナーに関わる外部からの指摘が多かったが、その都度対応できた。	A
		生徒への意識啓発	校内外で起こりうる事件・事故に対して正しく対処するにはどうしたらよいか考えさせ、また、常識ある行動を取れるように指導したか。	B	機会ある度に生徒全体に投げかけを行っている。HR単位では問題を投げかけ生徒自ら考え、自覚ある行動を取れるように対応している。自転車事故やSNSに関わる事案については、警察とも密接な連携をとっている。今年度は情報モラル教育の一環として急遽専門家を招きネット使用にあたっての危険性や留意点に関する講演を行った。	B
		相談体制の充実	生徒が相談しやすい校内体制を整備し、それが安心安全な学校生活につながったか。	A	生徒指導は学校全体で行うものであるという立場にたち、主に担任、養護教諭、それに特別支援コーディネーターが状況により相談相手となっている。特に注意が必要な場合は生徒指導が慎重に対応している。	B
		手続きのアカウントビリティ（説明責任）	生徒指導上の「指導」において、その根拠や手続きについて生徒や保護者に十分な説明と理解がされているか。	A	様々な状況下において発生する問題行動への対応は、その都度係内で検討しながら最善の策を模索している。実際の指導に当たっては保護者が納得した上で協力してもらえる環境を作れるように取り組んでいる。しかし、困難な場合も発生している。	B
		職員協力体制の確立	日常の生徒指導において、全職員の協力体制ができているか。	B	生徒指導は学校全体で取り組むものである。従って、職員が同じ認識をもち、同じ指導をすることが必要である。	B

進路指導	進路希望に応じた進路の実現	生徒への進路情報の提供及び進路相談業務を通して、生徒の希望・能力・適性に応じた進路がかなえられるよう指導援助できたか。	A	3年については7月の保護者懇談会にて最終の進路希望を確認した。11月28日時点で、企業への就職希望者96名全員が内定をいただき、公務員は6名が合格した。進学希望者は、77名中74名が合格した。進路先が決定していない生徒に対し、希望する進路が実現するよう担任と連携して進路指導を実施中である。	A
	進路情報の収集	入試説明会や学校訪問に参加し、また、事業所訪問や求人票の受付業務等を通して、より詳細な情報提供ができたか。 生徒が情報を得やすいように進路指導室および進路資料室を整備できたか。	A	3学年担任と共に事業所訪問や大学訪問、入試説明会に積極的に参加し、進路に関する情報収集に努めてきた。また、内定後も進路係・就職活動員とともに企業を訪問し他校も含めた今年度の状況や、来年度への課題等をまとめ、1・2学年担任に伝え、生徒へも情報提供を行っている。	A
	職業意識の形成	適切な進路計画の設定・実施を行ったか（インターンシップ・事業所見学・進学ガイダンス・模擬試験・進路講話など）。	A	インターンシップ・進路ガイダンス・進学相談会・進路講話等とおして、生徒の職業意識の形成を図っている。生徒にとって有益であり、生徒の職業意識の形成につながっている。	A
特別教育活動	生徒の自主活動	生徒会活動が自主的、主体的にできるよう本部役員が企画運営を考え活動する中で、達成感や充実感を得ることができたか。また、全校生徒が生徒会活動に対して意識を向上させることができたか。	A	本校独自で取り組んだ朝の挨拶運動、震災募金活動、岡工祭イベント等計画どおりに行えた。岡工祭では約1400名の来場者があり、工業高校ならではの展示、発表を見て楽しんでいただいた。震災募金や岡工祭で行ったチャリティーマーケット等の収益金を岡谷市をとおして日本赤十字社に災害の義援金として送付していただいた。また外部団体との関わりでは、岡谷市町づくり会議で岡谷市の将来を高校生視点で意見交換し、実現に向けて取り組みをしたり、岡谷市青少年健全育成会とは挨拶運動を行う事ができた。新役員も決まり生徒会活動が活発に行えるよう生徒の意識向上に期待したい。	A
	部活動の充実	部活動に入っている生徒が日常のクラブ活動を充実させ、各クラブや各自が定めた目標を達成することができたか。 また、各クラブの活躍を、学校内外に広く伝え、活動の励みにすることができたか。	B	運動系クラブ活動では体操部が国体とインターハイ全国大会に、ラグビー部が全国大会に出場を決めた。文化系クラブ活動では電気部が全国大会に出場を決めた。大会結果は随時学校のホームページにアップし、生徒会通信や生徒会誌にも載せて伝えている。また各新聞にも取り上げられてもいる。	A
学校運営	より良い学校運営	各係、委員会等との組織的な連携を図り、効率的な業務の推進に努めたか。 学校全体のバランスを見据え、諸行事の計画および実施において、より良い学校運営に努めたか。	A	教務係内の協体制を作り、常に学校全体の流れを視野に入れながら、時には分掌の枠を超えた連携を図り、円滑な学校運営に努めた。 綿密な計画のもと、職員会議での早めの提案および質疑を行うことで、職員間の意思疎通を高めることができた。 学校全般にわたる諸行事に対して、担当者および組織に対して適切な支援とサポートを行うことで、大きな混乱もなく学校運営を進めることができた。 学校生活アンケートの改正等により、生徒の声をつぶさに捉え適時に指導体制の取れる工夫を試み、生徒の指導に役立てることができた。	A
	地域に開かれた学校づくり	学校要覧、学校案内、学校パンフレット等を利用して、学校の魅力と特徴を発信し、地域にアピールすることができたか。 体験入学、学校見学等により、地域の中学生や保護者に対して、本校の教育活動を正しく理解してもらうことができたか。	A	岡工ホームページを用いて常に最新の学校情報の発信し、地域の皆さんに学校および生徒活躍をアピールすることができた。 学校パンフレットの有効利用（年末に150部増刷）して、随時積極的な情報発信に努め、特に中学生への入学者募集活動に役立てることができた。 7月の体験入学（見学）では生徒197名、9月の体験入学（体験）では生徒200名の参加者があり、アンケート結果からも好評であった。 岡工トピックス（新聞掲載記事の冊子）を季節毎に編集して、本校生徒の活躍を記録に残すと共に、諸行事、会議において配布した。	A
	入学者選抜業務	入学者選抜説明会等を利用して、本校と募集の観点に沿った適切な説明を行うことができたか。 前期選抜および後期選抜ともに、綿密な計画のもとに、的確な選抜業務を行うことができたか。	A	10月の入学者選抜説明会では、本校に入学実績のある35校の中学校の進路担当者が出席した。また希望のある6校には別途個別の中学校訪問を行った。 12月の入学者選抜説明会およびクラブ見学会（中学生・保護者向け）では、59名の申込があり、昨年を超える参加者を前に、学校のアピールを行うことができた。 前期選抜試験における面接試験の方法や評価について綿密な見直しを行い、より適正な入学者選抜試験を実施するための、綿密な準備を進めている。	A